



知事清規／光周筆／紙本墨書／縦 30.0×横 22.3 cm／室町時代（原本：寛元 4 〈1246〉 年）

本書は、道元禅師が寛元 4 年(1246)6 月 15 日に永平寺で撰述したものである。知事とは禅門寺院の運営を司る役職で、都寺(つうす)・監寺(かんす)・副寺(ふうす)・維那(いの)・典座(てんぞ)・直歳(しっすい)の六知事(ろくちじ)をいう。清規(しんぎ)とは規則のことであり、本書で道元禅師は寺院運営にあたって重要な知事の役職の意義や、その役割について詳細に説いている。本書は、道元禅師 250 回忌にあたる文亀 2 年(1502)3 月 22 日に永平寺 15 世光周(1434～?) が、永平寺塔頭の霊梅精舎で書写されたもので、永平寺に伝世されてきたものである。